

# 渡島・檜山支庁の気象

平成21年夏（6～8月）のまとめ（2009年）

函館海洋気象台

平成21年9月30日

## ◎ 平成21年夏（6～8月）の天候 — 「並温・多雨・寡照」

### 【気温】

3か月の平均気温は17.0～19.2℃で、平年差は-0.8～0.0℃となり、松前・今金・八雲町熊石・厚沢部町鶉で平年より低いほかは平年並だった。

### 【降水量】

3か月の降水量合計は328.0～925.0mmで、平年比は127～166%となり、すべての観測点で平年より多く、特に長万部・八雲町八雲・北斗・函館市美原・木古内・松前・福島町千軒・八雲町熊石・江差・乙部町潮見では平年よりかなり多かった。

### 【日照時間】

3か月の日照時間合計は278.6～382.9時間で、平年比71～88%となり、八雲町八雲で平年並のほかは平年より少なく、特に函館市川汲・函館市美原・松前・せたな町瀬棚・今金・厚沢部町鶉・江差では平年よりかなり少なかった。

## ◎ 月ごとの概況

### 【6月】「高温・並雨・寡照」

この期間の天気は、上旬、中旬は低気圧や気圧の谷の影響で雨や曇の日が多く、下旬には高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

月平均気温は平年並～平年より高く、月降水量は平年並～平年より多く、月間日照時間は平年並～平年より少なかった。

### 【7月】「並温・多雨・寡照」

この期間の天気は、上旬の終わりから下旬にかけて、前線を伴った低気圧が周期的に渡島半島付近を通過した影響で雨の日が多く、7月における月降水量の多い方からの順位が函館市美原で2位だったほかは、すべての観測点で極値を更新した。

月平均気温は平年並～平年より低く、月降水量は平年より多く、月間日照時間は平年並～平年より少なかった。

### 【8月】「低温・少雨・並照」

この期間の天気は周期的に変化し、高気圧に覆われ晴れる日もあったが、低気圧や気圧の谷の影響でぐずつく日もあった。また、期間の初めと終わりは、上空の寒気や放射冷却の影響で気温は低めに経過した。

月平均気温は平年より低く、月降水量は平年並～平年より少なく、月間日照時間は一部を除いて平年並だった。

注：数値に、] や) が付く場合は、統計した期間に欠測が含まれていることを示す。

◎ 気象官署（函館）、特別地域気象観測所（江差）における（6～8月）の各種資料

○ 気候表

	気温		降水量		日照時間	
	平均気温 (°C)	平年差 (°C)	月合計 (mm)	平年比 (%)	月合計 (h)	平年比 (%)
函館	18.9	0.0 (平年並)	495.0	142 (かなり多い)	348.2	73 (かなり少ない)
江差	19.2	-0.2 (平年並)	541.5	157 (かなり多い)	344.2	71 (かなり少ない)

(注) 表中平年比(差)の括弧付の値は階級を示す。

○ 極値・順位更新表（統計開始以来3位までの記録）

月	要素名	順位	地点名	観測値	これまでの記録	統計開始年
6月	6月における、日最大10分間降水量	3	江差	11.5mm 12日	11.5mm 2004年6月10日	1941年
	6月における、日最高気温の高い方から	3	江差	28.9°C 29日	28.8°C 1987年6月25日	1941年
7月	7月における、月降水量の多いほうから	1	江差	380.5mm	309.0mm 1987年7月	1941年
	7月における、月降水量の多いほうから	2	函館	334.0mm	331.5mm 1896年7月	1873年
8月						

○ 夏日、真夏日、不照、降水、霧及び雷の各日数

	夏日日数			真夏日日数			不照日数			降水日数			霧日数			雷日数		
	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年
函館	28	-3	32	0	-3	0	25	8	21	36	11	24	9	2	9	1	-3	4
江差	20	-7	29	0	-2	0	18	3	16	36	10	30	2	-6	5)			

(注)：降水日数とは、日降水量が1mm以上の日数。

：各地点の平年差は、平年値（小数第1位）を四捨五入した整数値と本年との差。

：数値に、] や) が付く場合は、統計した期間に欠測が含まれていることを示す。

◎ 異常気象および気象災害発生状況

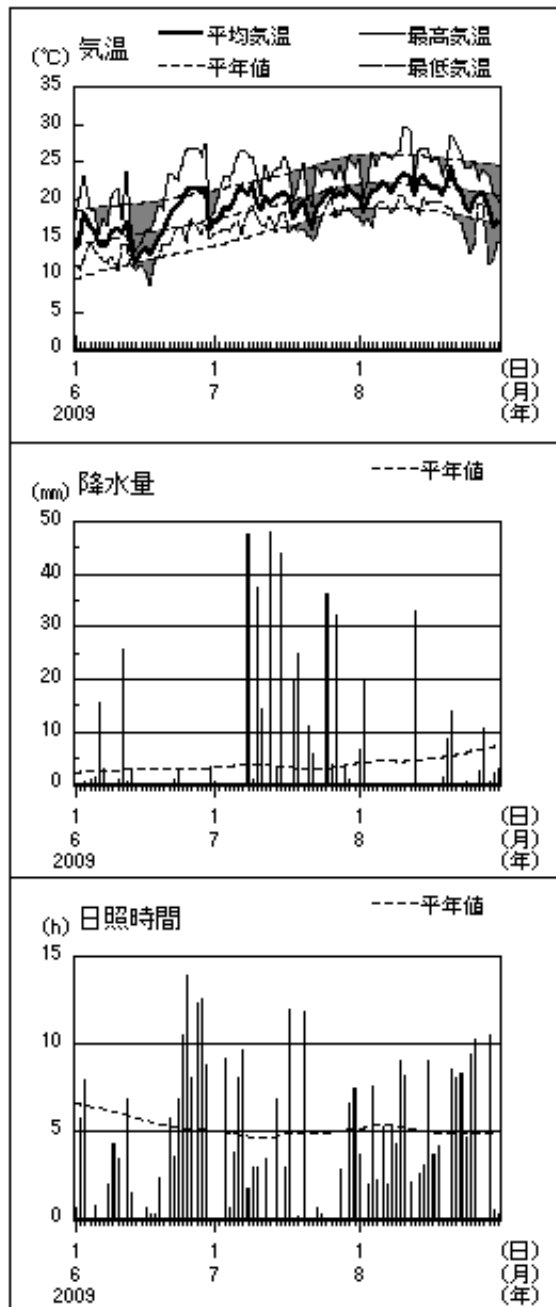
7月7日～8日 【檜山地方】 山がけ崩れ害、 陸上視程不良害	概況：前線を伴う低気圧が北海道の南を通過した影響で大雨となった。 被害状況：奥尻町の道道39号線で落石のため通行止。奥尻町が霧のため航空機欠航（函館－奥尻）2便。
---	--

<p>7月9日～10日 【渡島地方】 山がけ崩れ害、 浸水害</p>	<p>概況：津軽海峡の西にある梅雨前線上の発達した低気圧が、北海道の南海上を9日から10日にかけて通過した影響で、大雨となった。 被害状況：福島町の道道532号線で落石のため通行規制。八雲町でJR函館線（八雲駅－山越駅間）が冠水のため運休2本、遅延4本。</p>
<p>7月14日～15日 【檜山地方】 山がけ崩れ害、 浸水害、海上波浪 害</p>	<p>概況：前線を伴った低気圧が発達しながら北海道に近づき、大気の状態が非常に不安定となり、大雨となった。 被害状況：奥尻町の道道39号線で土砂崩れが発生し通行止。今金町の道道美利河二股自然休養線で落石のおそれがあるため通行止。また、町道も土砂崩れのため通行止1か所。今金町の民家裏の崖で土砂崩れが発生し住民1名が避難。海上交通欠航（江差－奥尻）2便。せたな町では農地が冠水し農業被害が発生した。</p>
<p>7月18日～19日 【渡島地方】 山がけ崩れ害、 強風害</p>	<p>概況：前線を伴った低気圧が北海道に接近した影響で暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定で、大雨や強風となった。 被害状況：函館市の民家裏の崖で土砂崩れが発生し非住家に被害、住民2名が避難。同市で強風のため、お祭り用のアーチが倒れ1名が負傷。</p>
<p>7月25日 【渡島地方】 山がけ崩れ害</p>	<p>概況：日本海中部の低気圧から北海道付近に延びている停滞前線に向かって、南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。 被害状況：八雲町の国道5号線で土砂崩れが発生し通行止。同町のJR函館線（落部駅－野田生間）も国道5号線の土砂崩れによる土砂が線路に流入し、運休22本。</p>

◎ 気象経過図（平成21年夏）

地上気象：2009年6月1日-2009年8月31日

函館



江差

